Ⓓ

２０２５年度

関西学院大学大学院人間福祉研究科入学試験【第１次】

【博士課程後期課程】

正規学生（社会人・外国人）　専門

受験についての注意事項

１．試験開始の合図があるまで、問題を見てはいけません。
２．問題用紙１部（本文１ページ）、解答用紙４枚が配付されます。過不足があれば監督者に申し出てください。
３．試験中に試験用紙の印刷の不鮮明、ページの欠落、乱れおよび解答用紙の汚れなどに気づいた場合は、監督者に申し出てください。
４．監督者の指示に従って、解答用紙の該当欄に受験番号と氏名を正しく記入してください。
５．解答はすべて HB の黒鉛筆または HB 0.5mm 以上の芯のシャープペンシルで記入してください。
６．解答用紙は丁寧に取り扱ってください。
７．解答は各問指定の解答用紙に記入してください。解答用紙の裏面にはいっさい記入してはいけません。下書きなどには問題用紙の余白を利用してください。
８．解答用紙の枠外および問題番号と異なる番号のところに書かれた解答は、評価（採点）の対象としません。
９．解答中以外の解答用紙は必ず裏返しに置いてください。
10. 受験中は不審な行動をとってはいけません。不正行為をした場合、当該年度の入学試験のすべてを無効とします。
11. 試験開始後６０分間と、試験終了５分前以降は退場できません。ただし、気分が悪いなど身体の調子が悪くなった場合は、監督者に申し出てください。
12. 監督者の開始合図と同時に試験を開始してください。
13. 監督者の終了合図と同時に解答をやめてください。
14. 問題用紙は試験終了後、持ち帰ってください。

Ⅰ．現在、人間福祉に関わる様々な現場において、「協働」が求められている。あなたの研究分野が対象としている現場においては、どのような「協働」が行われており、なぜ「協働」が必要とされているのか。また「協働」を実際に行ううえで、どのような配慮や工夫が必要と考えられるか。具体的に例を挙げて 1,000 字から 1,500 字程度で論じなさい。（50 点）

Ⅱ．以下の 1 から 3 までのうちの 1 つを選択し、800 字から 1,000 字程度で解答しなさい。なお、選択した設問の番号を解答用紙に記入すること。（50 点）

1　2022（令和 4）年に制定された「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が、今年 2024（令和 6）年 4 月 1 日より施行された。この法律の大きなポイントは、困難な問題を抱える女性支援の根拠法を「売春をなすおそれのある女子の保護更生」を目的とする売春防止法から脱却させ、先駆的な女性支援を実践する「民間団体との協働」といった視点も取り入れた新たな支援の枠組みを構築することにあるとされている（厚生労働省「女性支援新法の概要」）。

　この新法が誕生した背景の一つとして、女性を取り巻く状況にどのような変化があったのか説明しなさい。そのうえで、この法律の施行に際して社会福祉に期待されることは何か、あなたなりの考えを述べなさい。

2　2024 年 4 月より施行された孤独・孤立対策推進法においては、非営利組織（NPO）が大きな貢献を果たした。このように NPO が政策形成に寄与することの意義と役割、優位性について、政府・行政や営利企業との比較も含めて答えなさい。

3　大規模災害が頻発し、多くの被災者が長期間の避難生活を余儀なくされている。生活環境の変化にともなう苦労やストレスによる災害関連死も多い。被災者を支援するために、どのような取り組みが必要と考えられるか。具体的な例を挙げながら、こころ（スピリチュアリティ）または身体の観点を交えて論じなさい。

出題の意図

Ⅰ

志願者の研究分野の内容についての志願者なりの説明がなされた上で、設問に関するテーマ（協働）についての志願者の専門的な知識・理解がどの程度か、また、設問に関して志願者の解釈や意見が論理的説得力と独創性をもって記述、展開されているかを問う。

Ⅱ

人間福祉に関わる３つの設問（女性支援、NPO、被災者支援）から１つ選び、それについて、志願者の専門的な知識・理解の程度、志願者の解釈に沿いながら論理的説得力と独創性をもって説明できているかどうかを問う。

解答（または解答例）

Ⅰ

指定された文字数の範囲で、出題の意図に沿って、①志願者の専門的知識・理解の程度、②志願者の解釈の内容の正確さ、及び③自分の考えを論理的に、かつ④説得力をもって述べることができるか、あるいは⑤独創性が認められるかどうか否かを基準にして採点する。

Ⅱ

人間福祉に関わる３つの設問から１つ選び、選択した問題について出題意図に沿って、指定された文字数の範囲で、①志願者の専門的知識・理解の程度、②志願者の解釈内容の正確さ、③独創性、④論理性、及び⑤自分の考えを説得力をもって述べることができるか否かを基準にして採点する。